

施策評価シート(平成22年度の振り返り、総括)

作成日 平成 23 年 7 月 15 日

施策	35	芸術の薫るまちづくり	主管課	名称	観光商工課	関係課	教育課(生涯学習)
				課長	真庭 敏		

施策の目的	対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標名	把握方法や定義など		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度見込み
		①町民(外国人を含む)	①人口(外国人も含む)	住民基本台帳による 毎年度3月31日現在数値		人	23,305	22,924	22,618	22,194
	②来訪者	②来訪者数	群馬県観光客数・消費額調査による 日帰り客数+宿泊客数		千人		4,364	4,288	4,045	
施策の目的	意図 (対象をどういう状態にするのか)	成果指標名 (意図の達成度を表す指標)	設定の考え方	把握方法や定義など	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度目標
	①町の中で町民や観光客が芸術にふれることができるようにする	①日頃から芸術に親しんでいる町民の割合		芸術に親しんでいる町民の割合が高ければ、芸術が薫るまち作りができています。	町民アンケートによる	%		16.8	17.8	-
②芸術の薫るまちだと思ふ町民の割合			芸術の薫るまちだと思ふ町民の割合が高ければ、成果が向上したと考えられる。	町民アンケートによる	%		16.9	16.8	-	
③東京芸大寄贈の作品に触れることのできる場所の数			東京芸大寄贈の作品数や展示場所が多くなれば、より多くの町民及び観光客に芸術に触れる機会を提供できたと考える。 ※芸術作品は他にも数多くあるが、観光振興の手段として取り組んでいる東京芸大の寄贈作品を主な指標として取り扱う。	東京芸大寄贈の作品の展示箇所数(累計)とする	箇所			24	36	
④東京芸大寄贈の作品数(累計)				東京芸大寄贈の作品数(累計)とする	作品	55	75	112	138	

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)		2. 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)	
	①町内の芸術に親しんでもらう。 ②芸術のまちづくり実行委員会が開催するワークショップに積極的に参加してもらおう。 ③寄贈作品の展示場所の提供		1)町がやるべきこと ①芸術のまちづくり実行委員会活動を関係機関と協力して推進する。 ②東京芸術大学から作品を寄贈してもらおう。 ③芸術の薫るまちづくりの啓発。	2)国・県がやるべきこと

1. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）

①日頃から芸術に親しんでいる町民の割合は平成20年度が16.8%、平成21年度が17.8%となっており、低い水準で推移している。この要因は、町内に芸術に触れる機会や施設が少ないためと考えられる。

②「芸術の薫るまち」だと思う町民の割合は、平成20年度が16.9%で、平成21年度は16.8%と低水準で推移している。

③東京芸大寄贈の作品に触れることのできる場所の数は、平成18年度の3箇所から年々増加し、平成21年度には24カ所、平成22年度には36カ所と年々増加している。町の施設だけでなく、旅館・警察署等、展示場所を提供してくれる団体等が増えてきている。

④東京芸大寄贈の作品数は、平成18年度12点から平成21年度126点、平成22年度138点となり確実にその数を伸ばしている。また、作品の寄贈者の中には近年作品が評価されてきた者も出てきた。

2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）

①東京芸術大学の卒業作品の寄贈事業は本町のみでの取り組みであり、他団体との比較はできない。なお、取手市（東京芸大取手校舎あり）と台東区（東京芸大本校舎あり）は卒業作品を買い取る事業を行っている。

3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）

①「芸術の薫るまち」だと思う町民の割合の低さからも窺えたとおり、期待水準は高くはない。

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

①東京芸術大学文化交流事業の中で、卒業生作品の收藏事業や東京芸術大学への調査委託事業（図鑑作成等）を実施しており、寄贈作品数を順調にのばしている。また、これらの事業を町内に周知したことにより、展示協力者が増えてきている。

②東京芸術大学文化交流補助事業では、ワークショップ等をおこない、徐々に町内参加者も増加するなど芸術の薫るまちづくりが町内に浸透しつつある。

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

①東京芸大寄贈の作品に触れることのできる場所の数は年々増えてきている。また、東京芸大寄贈の作品数も増えてきているが、日頃から芸術に親しんでいる町民の割合や芸術の薫るまちだと思う町民の割合は依然低いままである。今後は、1.町民に見てもらおう、2.児童生徒に見てもらおう等の芸術に対して興味をもってもらおう活動を行うことが必要と考える。

②今後、寄贈作品が年々増えて行くに従い、收藏場所を確保していくことが必要。